



第9回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会 初出場を果たした熊谷工業高校（青赤）

特集

▼ P2

第9回全国高校選抜ラグビー&
めめまカップ“2008”

▼ P4

くまがやの農産物

▼ P6

行政改革大綱を策定

▼ P8

条例表彰者のご紹介

▼ P9

市政ワイド

戸籍・住民票等の請求および届出の際の「本人確認」が法律上のルールになります ほか

▼ P10

市政情報

▼ P16

くらしの情報

催し・講習・募集・スポーツ

▼ P20

くらしの相談

▼ P21

いきいき元気みんなの健康

▼ P24

文化施設情報

▼ P28

ニャオざね、くま博士の教えて！熊谷

▼ P30

フォトニュース・市報クイズ

▼ P31

埼玉総体・おたよりパレット

▼ P32

情熱世代 夢追い人・フレッシュクッキング

2008年春 高校生が繰り広げた 熱きスポーツの大会

第9回全国高等学校選抜
ラグビーフットボール大会
(4月1日～7日)
熊谷ラグビー場



第14回 熊谷市高校女子サッカー大会
「めぬまカップ'2008」
(3月25日～29日)
妻沼運動公園・利根川総合運動公園
葛和田サッカー場・大野サッカー場

▶東海大学付属仰星高校(大阪・青)
×國學院大學久我山高校(東京・黄)



◀熊谷工業高校(埼玉・青赤)
×大分舞鶴高校(大分・黒)



▶常翔学園高校(大阪・紺赤)
×尾道高校(広島・青)



東福岡高校、猿楽直希主将による選手宣誓

**第9回全国高等学校選抜
ラグビーフットボール大会**
桜舞う熊谷に、
代表校26チームが集う

第9回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会が、熊谷ラグビー場で4月1日から7日まで開催されました。

全国から26チームの強豪校が出場し、手に汗握る白熱した試合を繰り広げました。

今大会には熊谷工業高校が初出場しましたが、最終日の決勝戦は常翔啓光学園高校(大阪府)と御所工・実業高校(奈良県)の対戦となり、常翔啓光学園高校が優勝しました。

この大会は、スポーツ拠点づくり推進事業の認定を受けた全国60大会の中から「総務大臣・国民スポーツ杯」を受賞し、西の花園にならぶ、ラグビーの聖地として、全国の高校生ラグビーの憧れの大会になっています。

これからも、高校生ラグビーの熱き戦いを盛り上げるため市民の皆さんの応援をお願いします。

第14回熊谷市高校女子サッカー大会 「めぬまカップ'2008」

今年の大会スローガンは、
「輝け☆未来のなつこっちゃん」

第14回「めぬまカップ'2008」が3月25日から29日まで妻沼運動公園と利根川総合運動公園葛和田サッカー場および大野サッカー場で開催されました。北は北海道から南は鹿児島まで、全国大会の上位チームを含む48チームを招き、「なでしこジャパン」を目指す女子高校生校生の若さあふれる好試合が繰り広げられました。



愛知県立旭丘高校、前田真帆主将による選手宣誓

埼玉県からも7校が出場し健闘しましたが、決勝戦は常盤木学園高校(宮城県)と大阪桐蔭高校(大阪府)の対戦となり、常盤木学園高校が3度目の優勝に輝きました。

これからも、未来のなでしこジャパンを目指し輝いている女子高校生たちの大会に、市民皆さんの熱い声援をお願いします。

Congratulations! 大会の結果

第9回全国高等学校選抜
ラグビーフットボール大会

優勝 常翔啓光学園高校(大阪府)

常翔啓光学園 36 御所工・実業 21

決勝戦

第14回 熊谷市高校女子サッカー大会
「めぬまカップ'2008」

優勝 常盤木学園高校(宮城県)

常盤木学園 6 大阪桐蔭 0

決勝戦

春の利根川河川敷のグラウンドを駆け抜ける女子サッカーの選手たち
決勝戦 常盤木学園高校(宮城・緑) × 大阪桐蔭高校(大阪・シルバー)



▲県立松山女子(埼玉・赤)
× 東京経営短大村田女子(東京・紫)
◀県立熊谷女子(埼玉・赤) × 山陽学園(広島・青)



▲埼玉栄(埼玉・シルバー) × 県立柏崎総合(新潟・赤)

熊谷産酒米「さけ武蔵」

酒造好適米、「さけ武蔵」を熊谷市酒米栽培研究会員14人が中心となり、約20ha作付けし、この酒米をつかった酒が県内19社の酒造会社で製造されています。「さけ武蔵」は栽培がむずかしい品種ですが、安定生産にこぎつきました。



今年3月5日には、熊谷文化創造館さくらめいとで、熊谷市酒米研究会と埼玉県酒造組合、大里農林振興センターが主催で、蔵元が造った新酒発表会が盛大に開催され好評でした。「さけ武蔵」からできた、すっきり味のお酒をぜひ、ご賞味ください。



ファーマーズレストラン 「くまどん」

OPEN!

熊谷スポーツ文化公園のくまがやドーム東側に、経営構造対策事業により建築していた「ファーマーズレストランくまどん」が、4月23日にオープンしました。

このレストランは、地産地消の推進と新たな農産物販路の確立を図ることなどを目的としています。

また、美味いうどんやカレーライスなどを提供するレストランの登場で、公園施設が今まで以上に便利になることも期待されています。



おい ～美味しく・鮮やかなオレンジ色～



熊谷市はにんじんの作付面積、出荷量ともに県内第1位の産地です。特に、妻沼地区は、利根川の豊かな土壌と、冬の晴天と、堆肥製造施設を核とした地域内有機物循環型農業により、にんじんの大産地となっています。地区に適した品種とカロテン含有の高い品種を導入し、5月～6月に出荷しています。にんじんに含まれるカロテンは油と一緒にとると吸収が高まりますから、きんぴらごぼうや天ぷら、バター煮などは効果的な食べ方といえます。

にんじん

栽培農家 鈴木吉明さん(大野)

鮮やかなオレンジ色で美味しい春にんじんができるように、栽培しています。安全安心に心がけ、化学肥料・農薬を減らしています。ぜひ、めぬまのにんじんをご賞味ください。



さわ ～爽やかな酸味と 甘味のハーモニー～



熊谷市はブルーベリーの作付面積、県内第3位の産地です。特に、江南地区では、県内の産地としては一番古く、江南ブルーベリー生産出荷組合を組織し、安全・安心な生産に取り組んでいます。収穫時期は6月から9月で、この時期の地元農産物直売所(JAふれあいセンター江南店)の目玉商品となっています。また、江南産ブルーベリーを100%使用したブルーベリージャムも人気の逸品です。

ブルーベリー

栽培農家 柴田忠雄さん(上新田)

江南ブルーベリー生産出荷組合では、安全・安心に心掛け、化学肥料・農薬を減らした栽培をするとともに、全員が環境にやさしい農業の取り組みも、実践しています。



～歯ごたえとさわやかな香り～



熊谷市のきゅうりは栽培時期に合った品種を導入し、いつも新鮮、香り、つや、歯切れがよく、食味のよいものです。ビニールハウスで栽培され、主に3～6月頃出荷される春きゅうりと、9～12月頃出荷される秋きゅうりがあります。農薬の使用をできるだけ控えるとともに、今まで使っていた薬剤を環境に優しいものに代える等の取り組みを行っています。

きゅうり

栽培農家 横倉 勇さん(間々田)

おいしいきゅうりができるように、土づくりをしています。組合では、安全安心に心がけ、GAP(農業生産工程管理)の勉強も始めました。利根川の肥沃な大地の恵みを生かしたきゅうりをご賞味ください。



～鮮やかな黄色が食欲をそそる～



甘みが強く歯触りがよいと定評のある「味来」が主力品種です。昨年からは一回り大きめの品種「ゴールドラッシュ」も加わりました。6月から7月にかけて新鮮で良質なトウモロコシが出荷の最盛期になります。おいしく食べるコツは、とにかく入手したらすぐに調理すること。時間の経過とともに甘みが少なくなってしまう。一度に食べきれない場合は、ゆでて冷ましてから粒を外して、冷凍保存するのがお勧めです。

スイートコーン

栽培農家 吉田正己さん(須賀広)

江南地区では初夏に旬を迎えるスイートコーン、つるむらさきをはじめ一年中色々な野菜を生産しています。皆さんの食卓に良質で安全な野菜を届けられるよう、日々努力をしています。



～熊谷の夏にも負けずに ぐんぐん育つ～



5月中旬から10月下旬にかけて販売される暑さに強い熱帯アジア原産の野菜です。ビタミン・ミネラル類を豊富に含み、夏場の葉物野菜として貴重な作物です。もともとは茎が紫色の品種が主流だったためこの名がつけましたが、現在栽培されているのは、茎が太く緑色の種類です。料理の応用範囲は広く、炒め物、天ぷら、ゆでて和え物お浸しなど便利に使えます。ゆでると特有のぬめりがで

ます。独特のクセが気になるときは、下ゆでして水にさらしてから調理します。

つるむらさき

新鮮！安全！おいしい！
多彩なくまがやの農産物
食の安全と安心を地産地消で実現する。

最近、消費者の食の安全・安心に対する関心が高まっています。「地域でとれた生産物を地域で消費する」地産地消を通して、熊谷産農産物のすばらしさや、環境に配慮して生産している農家のことを知っていただきたいと思っています。もっと、多くの農産物を多くの市民の皆さんに利用していただくため熊谷育ちの選りすぐりの農産物をご紹介します。ぜひ、ご賞味ください。

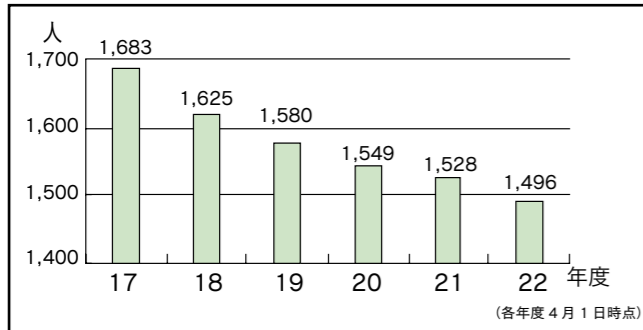
◆農業振興課(妻沼庁舎) TEL 048-5888-1321

改革目標 健全な財政運営

歳出を抑制するとともに、積極的に歳入の増加策に取組みます。また、本市の財政に大きな影響を与える水道事業の経営健全化に取組み、第三セクター等についても経営改革に取組むよう促します。

重点項目	計画項目	前期実施計画
歳出の抑制	補助金等の適正化	・すべての補助金等に対しサンセット方式*6による見直し
	公共工事のコスト削減	・平成17年度の標準的な公共工事コストに対し3%以上の縮減
	公共サービスの市場化	・公共サービス改革法*7による官民または民間競争入札の導入検討および市場化提案制度*8の一部実施
自主財源の確保	収納対策	・91%以上の納税率
	使用料・手数料の適正化	・最終見直しから5年経過したものを対象に見直し
	市有財産の有効活用	・未利用の土地の積極的な売却・貸付
	企業誘致の推進	・新たに10社以上の企業立地
水道事業の経営健全化	広告料収入の拡大	・市有財産等を活用した有料広告事業の実施
	水道事業の経営健全化	・新水道事業計画の策定および速やかな事業統合
第三セクター等の見直し	監査機能の強化、情報公開の拡充	・監査機能の強化および情報公開の拡充の要請
	給与・役員数の見直し、組織機構のスリム化	・給与、役員数の見直しおよび組織機構のスリム化の要請
	市の関与のあり方の見直し	・財政的支援、人的支援の見直し
	土地開発公社の経営健全化	・平成18年度末で土地開発公社が保有する土地55,670㎡を、市の買戻しにより7,356㎡に縮減

定員管理の適正化（職員数の推移と数値目標）



*平成19年度までは実数、平成20年度以降は予定数です



熊谷市は「低コスト高満足市政への転換」を進めます

行財政改革の指針となる行政改革大綱を策定しました

熊谷市行政改革大綱は目標年次を平成24年度とし、「低コスト高満足市政への転換」を基本理念に、「公共サービスの重点化」「効率的な行政運営」「健全な財政運営」の3つの改革目標を定め、12の重点項目、27の計画項目など行政改革の具体的方策を示しています。大綱を計画的に実施するための「前期実施計画書」に基づき、平成21年度までの具体的な取組みについて、その概要をご紹介します。

◆行政改革推進室 ☎内線216

改革目標 公共サービスの重点化

行政効率や効果等を検討しながら、必要性の薄れた事務事業を廃止し、民間でのサービス提供が可能な事務事業については積極的に民間に委ね、市民との協働を推進しながら、市自らが担う公共サービスの重点化を図ります。

重点項目	計画項目	前期実施計画
事務事業の再編・整理、廃止・統合	事務事業の見直し	・事務事業数1,614本の5%を削減
	行政評価システムの導入	・総合振興計画、予算編成との連動が図れる行政評価システムの構築
	重複施設の見直し、活用	・施設の統廃合や転用を含め、その必要性について精査
民間活力の活用	指定管理者制度*1の活用	・新たに8施設以上について導入
	事務事業の委託化の推進	・一部委託も含め事務事業数の20%を委託化
市民との協働	地元企業、NPOとの連携	・活動主体に対する支援 ・パートナーシップマニュアルの策定
	市民参画の推進	・自治基本条例および協働事業提案制度*2の制定 ・パブリックコメント*3の実施
	市民との情報共有化	・市民満足度評価調査の実施 ・市報、ホームページの充実 ・各種審議会の公開の推進

改革目標 効率的な行政運営

簡素で効率的な組織・機構の構築を目指すとともに、人材の育成やICT化を推進し、効率的な行政運営を目指します。また、職員定数や給与等について、更なる適正な管理運用と情報公開に努めます。

重点項目	計画項目	前期実施計画
組織・機構の見直し	簡素で効率的な組織・機構の構築	・適正な職員配置数の実現 ・行政センターの組織・機構の検討
人材育成の推進	職員の意識改革と能力開発	・熊谷市人材育成基本方針に基づく人材育成 ・研修制度と人事制度の連携
ICT*4の推進	ICTを活用した業務改革	・電子自治体業務の標準化・共同化 ・熊谷市情報セキュリティポリシー*5の見直し
定員管理の適正化	定員適正化計画にのっとった定員管理	・平成17年度から5年間で職員を187人以上(11.1%)削減
給与等の適正化	給与制度等の見直し	・高齢層職員の昇給制度の見直し ・勸奨退職者の特別昇給制度の見直し ・時間外勤務時間数の抑制 ・諸手当の総点検の実施 ・長期病休者休暇制度の見直し ・能力、職責実績を反映できる給与制度の構築
	福利厚生事業の適正化	・市からの交付金の負担割合を50%に向け圧縮

用語の説明

*1 指定管理者制度

「公の施設」の管理運営主体は、地方自治法の改正により民間事業者やNPO法人ボランティア団体等幅広い団体にも管理運営を委ねることができるようになりました。

*2 協働事業提案制度

地域の多様な課題について、市民の発想を活かした提案を募集し、提案団体と市がともに「協働」して解決に取り組むための制度です。

*3 パブリックコメント

市の基本的な政策案の作成に当たり、事前に内容を公表して市民から意見を募集し、それを考慮して政策の意思決定とすることをいいます。

*4 ICT (information communication technology (略))

情報通信技術。ITよりもコミュニケーション「通信」を強調したい場合に用いられます。

*5 情報セキュリティポリシー

情報に対して目的外に利用することや部外者の侵入、情報の漏洩などを防止するための対策方針です。

*6 サンセット方式

あらかじめ終期を設定し、終了時点で評価を行い、改めて廃止か継続かを定めるしくみです。

*7 公共サービス改革法(競争の導入による公共サービスの改革に関する法律)

民間にできることは民間に」という構造改革を具体化したもので、今まで公が行っていた行政サービスについて、官民競争入札、民間競争入札を活用し、民間事業者の創意工夫を適切に反映させることにより、より良質かつ低廉な公共サービスを提供することを目的とした法律です。

*8 市場化提案制度

民間事業者も含め最適なサービス提供主体を選択するため、広く公共サービスのあり方について民間からの提案を募る制度です。

詳しくは、市ホームページのほか、市役所1階の情報公開コーナー、大里・妻沼・江南各行政センターの総務課で閲覧できます。

条例表彰者 のご紹介

文化功労表彰

小池幹衛氏は、熊谷市郷土文化会会長や熊谷市文化連合理事等の要職を歴任されながら、郷土史研究や生涯学習活動を通じて地域文化の発展に大きく貢献されました。氏は、郷土史研究に力を注ぎ多くの論文や文献を執筆され、平成11年には、熊谷市郷土文化会会長に就任、また、「直実・蓮生を学ぶ会」を結成、初代会長に就任されるなど郷土文化の愛護に献身的な尽力をされました。また、市立図書館の嘱託講師や、公民館および企業が主催する歴史講座の講師として、さらに平成19年からは熊谷学講師として、熊谷市の魅力を広く伝えるため、その才知を発揮され、本市における郷土史研究の第一人者として活躍されるなど、本市の発展と地域文化の振興に寄与された功績は誠に顕著です。



こいけ かんえ
小池 幹衛氏
(81歳 高柳在住)

4月5日、熊谷市立大里生涯学習センター「あすねつと」において、平成20年度熊谷市表彰式を挙行し、本市の文化の興隆、福祉の増進、産業の発展または自治の振興にご貢献された5名の方を、熊谷市表彰条例により表彰しました。また、市表彰規則により91名の方々を表彰しました。

◆秘書課 ☎ 内線 204

産業功労表彰

田谷宗一氏は、くまがや農業協同組合の理事や代表理事組合長として、農業を取り巻く厳しい状況の中で指導力を発揮し、本市の農業振興に多大な貢献をされました。氏は、農協の合併による、くまがや農業協同組合発足にあたっては、合併準備室長として尽力され、また、平成17年には代表理事組合長に就任し、地産地消の拠点となる大里・江南の農産物直売所や、新たな営農経済センターの設置など、優れた指導力をもって農協の経済事業の改革を積極的に推進されました。また、県農業協同組合中央会理事、県農業信用基金協会理事等の要職に就かれるほか、熊谷市固定資産評価審査委員会委員として地方行政の推進に尽力されるなど、本市の発展と産業の振興に寄与された功績は誠に顕著です。



たがや そういち
田谷 宗一氏
(70歳 佐谷田在住)

福祉功労表彰

小池チヨ氏は、27年余りの長きにわたり保護司として更正保護活動に取り組まれるとともに、民生委員・児童委員として活躍されるなど、地域福祉の増進に大きく貢献されました。氏は、保護司として、あたたかい助言や指導により多くの人を更生に導くほか、民生委員・児童委員として地域住民の良き相談相手として献身的に尽くされました。また、氏の高潔な人格と真摯な姿勢が多方面から厚い信任を得て、平成5年に肥塚地区社会福祉協議会会長、平成18年に熊谷地区更生保護女性会会長、平成19年に熊谷地区保護司会副会長に就任され、卓越した指導力と情熱により地域福祉の向上に力を注がれるなど、本市の発展と市民福祉の向上に寄与された功績は誠に顕著です。



こいけ ちよ
小池 チヨ氏
(75歳 肥塚在住)

自治功労表彰

坂田友一氏は、8期32年の長きにわたり、熊谷市議会議員として市政進展のため献身的な努力と情熱を傾け、本市の発展と市民福祉の向上に多大な貢献をされました。この間、市議会にあっては民生常任委員会委員長、総務常任委員会委員長、決算審査特別委員会委員長および市議会副議長等を歴任、さらに、昭和59年には市議会議長に就任され、効率的かつ円滑な議会運営を推進されました。また、大里広域市町村圏組合議会議長、熊谷地区消防組合議会議長等、市政のみならず広域行政の発展に尽力されたほか、合併による新熊谷市の第3代市議会議長として二度目の議長職に就かれ、合併前後の議会運営を円滑に舵取りされるなど、本市の発展と地方自治の振興に寄与された功績は誠に顕著です。



さかだ ともいち
坂田 友一氏
(88歳 東別府在住)

産業功労表彰

藤間憲一氏は、業界団体役員や商工会議所主要役員として要職を担い、中小企業再生や地域産業活性化に努め、本市の商工業振興に大きく貢献されました。氏は、(協)熊谷鉄工機械工業会理事長、熊谷市工業団体連合会会長として地域工業の発展に尽力されたほか、熊谷商工会議所副会頭として、産業ビジョンの策定や経営基盤強化を推進するなど、卓越した手腕を発揮されています。また、(協)熊谷異業種交流会副理事長として、「ミニ工業団地」の建設にあたり多大な貢献をされました。さらに、平成19年の熊谷うちわ祭では大総代としてITネットワークの利用など祭りの改革に取り組まれ、祭りを大成功に導き、地域の活性化を推進するなど、本市の発展と産業の振興に寄与された功績は誠に顕著です。



とうま けんいち
藤間 憲一氏
(62歳 桜町在住)